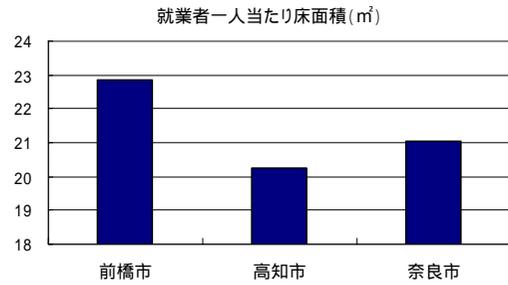


【資料 2 4】床面積の比較

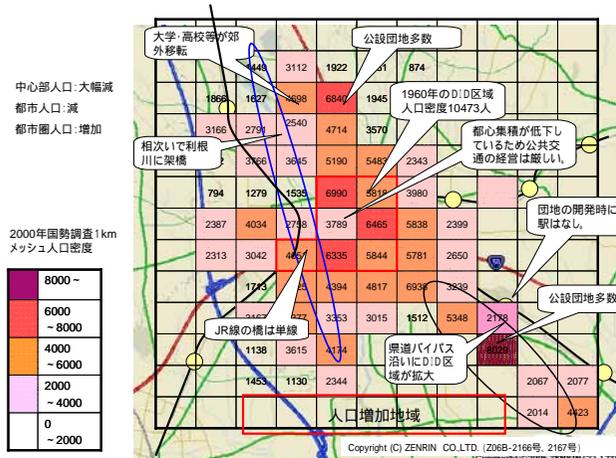


各市の固定資産概要調書のうち(事務所・銀行・店舗・百貨店)の項目の総床面積を各市内の各産業従業者数で除して算出

【資料 2 5】前橋市、高知市、奈良市の歴史

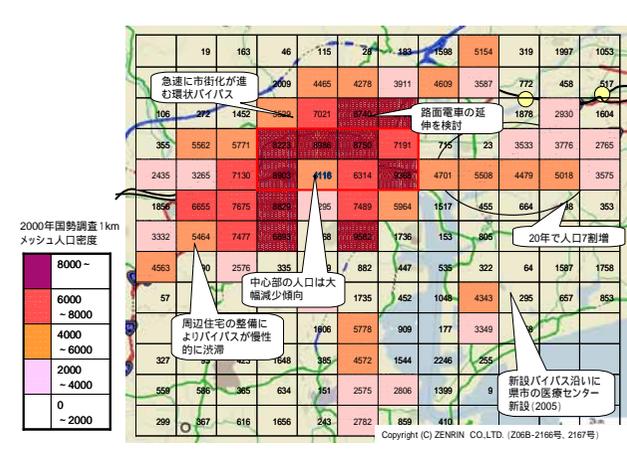
	前橋市	高知市	奈良市
1800年頃まで	1475年、A城が築かれ、城下町として発展	1660年、B城が築かれ、城下町として発展	710年、都が置かれ、門前町として発展
明治維新前後	<ul style="list-style-type: none"> 県庁所在地となる 生糸の生産が活発化し、政治、経済の中心地として発展 	<ul style="list-style-type: none"> 県庁所在地となる 政治、文化、経済(漁業等)の中心地として発展 	<ul style="list-style-type: none"> 県庁所在地となる 文化の中心地として引き続き発展
第2次大戦前	<ul style="list-style-type: none"> 1884年、国鉄開通 1884年、国道認定 1890年、路面電車開業 	<ul style="list-style-type: none"> 1885年、国道認定 1904年、路面電車開業 1924年、国鉄開通 	<ul style="list-style-type: none"> 1887年、国道認定 1914年、私鉄開通
第2次大戦中	<ul style="list-style-type: none"> 1945年、空襲により、市街地の8割が焦土化 	<ul style="list-style-type: none"> 1945年、空襲により、市街地の大半が焦土化 	<ul style="list-style-type: none"> 戦火を免れる
第2次大戦後	<ul style="list-style-type: none"> 戦災復興土地区画整理 1953年、路面電車廃止 1980年、高速道開通 1982年、新幹線開通 	<ul style="list-style-type: none"> 戦災復興土地区画整理 1946年、大地震 1987年、高速道開通 	<ul style="list-style-type: none"> 1966年、古都保存法 高速道建設計画中 2006年、鉄道新線開通

【資料 2 6】前橋市の特徴(自動車依存型都市)



年間一人当たりのCO2排出量(運輸旅客部門)は、1.22トン

【資料 2 7】高知市の特徴(中心部集約型都市)



■年間一人当たりのCO2排出量(運輸旅客部門)は、0.88トン

- 戦災で、市街地の8割を焼失し、いち早く復興のための区画整理事業が、中心市街地を皮切りに積極的に行われています。
- 目抜き通りに当たる国道には、路面電車が走っていましたが、住民の要望により、1953年に廃止されました。理由としては、当時増えつつあった自動車交通への支障、沿道商店への影響、バス代替が可能と判断されたなどが挙げられています。
- 増加する人口・世帯に対応するため、郊外に公営住宅が建設されましたが、鉄道駅からは遠いものでした。しかし、当初は密なバス網で結ばれており、1965年頃、中心駅を発着するバスは1日1500本に上りました。
- 増え続ける自動車交通に対応するため、積極的に河川に架橋されましたが、並行している鉄道の鉄橋は、現在に至るまで単線のままとなっています。
- 国道、県道バイパスなど縦横に張り巡らされた道路網に沿って都市が拡散しています。中心市街地の疲弊は激しく、大型店も相次いで撤退し、一時的ではありますが、現在、県庁所在地で唯一映画館を有しない市となっています。

- 戦災で市街地の大半を失い、戦災復興事業により土地区画整理事業が実施されました。そのとき、路面電車が通る中心部の道路が拡張されています。
- 中心部には、依然としてはっきりとした人口集積が見られますが、人口減少は著しく、郊外で人口が増加しています。
- 沿線人口の減少などで、路面電車の利用者は激減し、赤字経営となっています。鉄道分担率は、他の地方都市と比べて高くはありません。
- 国体のための整備もあり、近年道路整備が急速に進んでいます。また、路面電車の中心駅北側への延伸も検討されています。
- 郊外の住宅団地を通る国道バイパスは、市内で最も混雑する路線になっています。
- 里地里山保全条例を2000年に施行し、市街区域内の里地里山を保全し、市街地を拡大を抑制することを目指しています。